



図書館だより

2023年
6月30日発行

秋草学園高等学校 図書館

明後日7月2日は、1年のちょうど真ん中の日。平年はこの日の正午がちょうど真ん中の時間となります。2023年が始まってから半年が経つこととなりますが、2023年前半でみなさんはどんな思い出を作ることができたでしょうか。学校生活の様々な瞬間が思い出に刻まれていることだと思います。2023年の後半も充実した日々を送ってくださいね。さて、図書館では七夕に向けて、みなさんに願い事を星に書いてもらい、飾りつけしています。日に日にたくさんの星が飾られてきていますので、まだの人も七夕までにぜひ参加してください。お待ちしております！

7月公開のジブリ新作はどんな映画??

7月14日にスタジオジブリの宮崎駿監督の新作映画『君たちはどう生きるか』が公開予定です。題名にピンときている人もいるかと思いますが、この題名は吉野源三郎さんの著書『君たちはどう生きるか』から取られており、この本を読んで感動した宮崎監督がオリジナルストーリーを考案したのだということです。

スタジオジブリはこの作品について、予告編を含め、事前の宣伝を行わない方針のようですが、映画を観るまでにどんなストーリーなのか想像を楽しんでみませんか。

159-3 『漫画 君たちはどう生きるか』

吉野 源三郎 || 原作 羽賀 翔一 || 漫画 カヅノワ

吉野源三郎さんの名作『君たちはどう生きるか』を漫画にしたこの本は2018年のベストセラー第1位(トーン、日版調べ)に輝くなど大変話題となりました。

中学生のコペル君の日常は様々な体験を通して得た発見や疑問であふれている。そんなコペル君が迷い、悩んだ時には叔父さんが一緒に考え、助言をくれる。その助言をきっかけに考えを深めていくコペル君の姿から私たちもたくさんの気づきをもらい、視野が広がります。

漫画であらましを掴んだら、原作である吉野源三郎さんの『君たちはどう生きるか』(158-3 岩波書店)も読んでみましょう!!



●図書館にはジブリの絵コンテ集も揃っています

778-1 『スタジオジブリ絵コンテ全集1 風の谷のナウシカ』 宮崎 駿 || 著 スタジオジブリ

絵コンテとは、映画の設計図のようなもの。絵コンテを知ることで、作品のすごさや世界観をより感じられるでしょう。映画を観たことのある人は各シーンを思い出しながら、まだ観ていない人はこの絵コンテからどんな映像が生まれるのか想像しながら、楽しんでください。

雨の描写を楽しみながら読んでほしい1冊

913.6-7 『雨上がり、君が映す空はきっと美しい』

汐見 夏衛 || 著 スターツ出版

コンプレックスばかりの美雨は、憧れの先輩と同じ高校に入学したものの、遠くから見つめるだけの日々。そんなある日、美雨は突然先輩から映画部で制作する自分の作品に出てほしいと勧誘される。『君はすごく雨が似合う』先輩の言葉で諦めるしかないと思っていた恋が動き出す。

913.6-1 『雨降る森の犬』

馳 星周 || 著 集英社



自分勝手な母と離れ、叔父とバーニーズ・マウンテン・^{あまね}ドッグのワルテルと暮らし始めた雨音。自分を見下すワルテルとの生活に悪戦苦闘していたが、やがてお互いを家族と認め合えるようになる。家族のぬくもりを感じられる生活や隣の別荘に住む正樹との出会いが雨音を変えていく。

新着コーナーの気になる本

290-7 『黒猫ノロと世界を旅した20年』

平松 謙三 || 著 ハーパーコリンズ・ジャパン

猫嫌いの著者 平松さんを3日でノックアウトさせた子猫はノロと名付けられ、平松さんと世界中を旅することに。旅の才能を持って生まれたかのように旅を楽しむノロの様子や旅先で平松さんが撮り続けたノロの写真が魅力的な1冊。読んでいると世界を旅したくなります。

B913.6-2 23 『Jミステリー2023 SPRING』

光文社文庫編集部 || 編 光文社

人気作家6人によるミステリー短編集。ミステリー好きの人はもちろん、1冊で色々な作家さんの作品が読めるので、「ミステリーが読みたいけど、どれを読もうか迷う」という人にもおすすめ。気軽に読める長さですし、どの作品もグッと引き込まれる展開が待っています。

司書の今月はこの本読みました

前号で村上春樹さんの特集しましたが、ひさしぶりに『海辺のカフカ』を読んだら、他の作品も読み返したくなり、『辺境・近境』(915.6-1 新潮社)を再読しました。この本は小説ではなく旅行記なのですが、村上春樹さんの旅先は個人の旅行ではあまり行かないようなディープな場所ばかりで、とてもおもしろく、興味深かったです。自分で旅するのも楽しいですが、自分では行けないような場所を旅した人が見たもの感じたものを追体験し、わくわくするのも楽しいです。それと、村上春樹さんのユーモラスな面を知ることができるのもこの本の魅力。【今井】